清流ニューズ

発行所
八王子市子安町1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164
http://seiryuji.jpn.org/

御教歌

懺悔せば心の罪やきえぬらん
身におひきつるおも荷おろして

宗風　懺悔

「懺悔は起信のスガタ」のみ教えを体し、妙講一座の要文に示された看経勤行によって常に心を清浄にし、改良と信心向上につとめ、経力、佛力を蒙る滅罪生善の口唱行に励む

当宗は、御宝前での勤行に、妙講一座の御文を誦して、御題目を口唱します。その妙講一座の無始已来の第一段から、ああ有難やの段までを、五つの懺悔、即ち五悔の要文と申します。電子計算機でも勘定できない、遠い昔から、妙法に背いてきた、謗法罪の数々に対する懺悔が無始已来の御文です。次の如来滅後から、南無当門勧請の列祖の御文までが勧請段で、仏祖を始め、その正統を伝えた先師先聖の教導力や加護力の偉大さに気がつかず、従って、おすがりもせず、み教えを、真剣に頂かなかった罪をお詫びし、懺悔改良する一段です。願くは受持口唱し奉るの一段は、死者の回向を怠り、他の幸福を祈らず、ただ自利のみを図った慈悲心の欠除を懺悔して、他人の冥福や幸福を祈る回向段。ああ有難やの御文は、感謝感激を、何にするのか、わからなかった不明の罪を、改良して、妙法の功力に随喜する随喜段と、願くは生々世々菩薩の道を行ずるという発願段で、四弘誓願の第一、衆生無辺誓願度の誓願行を忘れた罪を、懺悔改良する一段。以上、懺悔・勧請・回向・随喜・発願の五つ通りの懺悔をして、心を清浄にしてから、口唱行に励むのが、当宗の信心です。この当宗の信心道を肝に銘じて忘れず、日常生活の中にも、五悔の精神を活かし、短所自覚・改良断行の懺悔の生活に突入するように努力することが、信者の、夢にも忘れてはならぬ要義です。

弘通広宣を祈る信者は、他の人に法を説いて聞かせるだけでなく、自分に対しても厳しさがなければなりません。どうせ末法悪世の人間だからと、自省心が微弱で、ルーズな（だらしがない）気持で、生活すると、ご弘通ご奉公に支障をきたします。無論、神様ではありませんから、失敗はあるでしょうが、信者であれば、私生活でも、年々進歩向上の跡が見え、非難される事柄が段々減少しなければ、信仰した甲斐がない訳です。殊に妙講一座に示された、謗法の罪業の根の深いことに気が付かぬ甘さ、成仏道に導いて下さる大切な方々を尊重する心のないうかつさ、自利のみを考えて、利他の大事なことを忘れた未熟な人生観、なにに、どこに、感謝すべきかが、わからぬ愚鈍さ、三世の因果が信じられぬ因果知らずの考え方などの根本的な人間の弱点、それに着目し、四六時中、その懺悔改良を心掛けるのが、信者の生活なのです。これは、仏祖の教えを、素直に頂く、信心に住して、始めてわかる世界で、凡夫考えでは見当もつきません。全く「信は道の源・功徳の母」です。このように人間を根本から建直す御利益こそ、妙法の最大の御利益だと悟ってほしいものです。戦時と平和時代では、善と悪との判断が、ウラハラになる時があるように、人間の判断は、長い目で見ると違ってくる場合がありますから、信者は、法華経の教えを標準にして、善悪の判断をする習慣をつけ、懺悔改良が素直に出来る暮らし方を考えるべきです。

日晨上人要語録

宗風の考え方
懺悔信者の生活

平成二十八年度総祈願

本年度教化誓願達成
佛立開導日扇聖人ご生誕二百年慶讃
佛立開花運動第四年度御奉公成就之御願
晨尊三十三回御諱報恩御奉公成就
役中後継者養成・法灯相続促進

高祖日蓮大士龍口法難記念一万遍口唱会

十三日午前六時より
総講終了時

高祖日蓮大士の龍口法難記念口唱会は、十三日の高祖御命日総講日を、一万遍口唱会とし実施させていただくことになりました。

当日は、午前六時の朝参詣開始から、御総講終了時までを一万遍口唱会といたします。

高祖会全国奉納金

奉納〆切　九月廿五日

本年の本山高祖会は、十月九日です。

高祖会全国奉納金は、宗門運営の資となって居りますので、志を篤く奉納させていただきましょう。

九月の朝参詣強調週間

九月十八日～廿一日
第一連合担当

九月の朝参詣強調週間は、月の中程の十八日から廿一日までの四日に実施いたします。

第一連合の担当ですが、他連合もこの四日間は丁度秋のお彼岸にも入りますので、将引しあって朝参詣に気張りましょう。

九月十八日（日）　元八王子教区
十九日（月）　八王子東教区
二十日（火）　八王子西教区
廿一日（水）　八王子南教区
　　八王子北教区

日序上人御十七回忌報恩ご奉公

御有志奉納者氏名（その八十一）
（教区順。敬称略。順不同）
二十八年八月十七日現在
合計　九六四名、一，八二〇口

九月の御総講日

一日　十時　御修行日
四日　十時　バースデー総講
　　併　長寿特別総講
十三日　十時　高祖御命日
　　併　日蓮大士
　　龍口御法難記念一万遍口唱会
十七日　十時　開導御命日
廿五日　十時　門祖御命日
　　於　清流寺
十二日　九時半　高祖御逮夜
十六日　九時半　開導御逮夜
廿四日　十時　門祖御逮夜
　　併　秋季彼岸会総回向
三十日　十時　歓尊御命日
　　於　羽村別院

特別行事
廿二日　十時　秋季彼岸会総回向
廿四日　十時　羽村別院奉修

会議
一日　御総講後　役中会議
十八日　午後二時　参事会
廿五日　御総講後　教区長会議

秋季彼岸会総回向

廿二日　本寺
廿四日　羽村別院

本年はうるう年のために、彼岸の中日が廿二日になっております。

その為、廿二日に本寺で勤まり、別院では廿四日の門祖御逮夜総講に併修されます。

彼岸の入りは十九日ですが別院においては、十八日の日曜日から彼岸参詣の準備をして墓苑参詣者をお待ちいたしておりますので、お墓参りをされる方は、まず本堂にお参詣し、ご宝前にごあいさつをすませてから、お墓参りをされますようおすすめいたします。

本年度の開導聖人御正当会
晨尊三十三回御諱法要
晴天の下無事奉修御礼

去る七月三十一日、午前十時三十分より、本年度の開導聖人御正当会が晴天のお計らいをいただき無事に奉修させていただきました。

当日の天気予報では雨マークで、しかもかなり悪天候との予報でしたが、奉修御導師のお徳をいただき絶好の御会式日和の中で奉修されました。

力強くご唱導の丸山日印上人

御法門では

わくらばに人と生れし
おもひ出の
妙法五字にあへるなりけり

の御教歌を引かれ、ご教歌の「わくらば」とはタマサカという意味で、開導聖人がルビをつけてくださっています。

妙講一座の随喜段、「あゝ有難や、まれに人身を得、適（たまたま）仏法に値へり」といつもお唱えしているように生れがたい人間に生をうけ、しかもこのお出値（であ）いしがたい上行所伝のお題目さまのご信心にめぐりあえた勝縁（しょうえん）を大事にご信心にはげむことが肝心ですとお諭し下された。

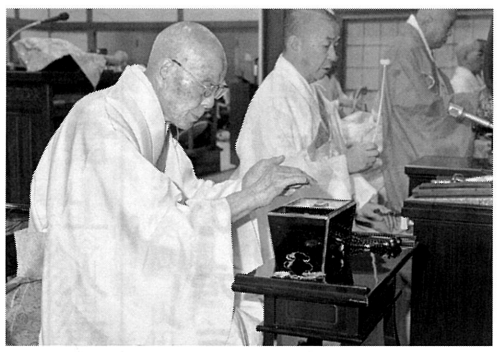
丸山日印上人のご法門

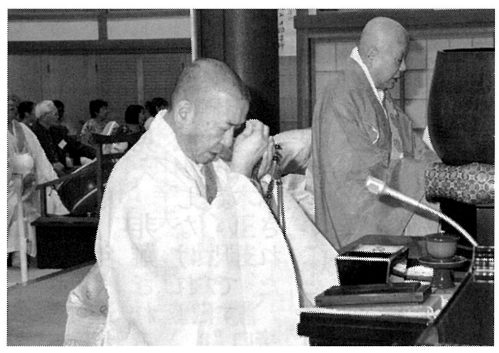
丸山日印上人は、前日から来八（らいはち）され、又随伴参詣のご信者さん方は、早朝より乗用車でお参詣いただきました。

御会式終了後、お召し替えを済まされた奉修御導師と当山住職をかこみ記念撮影にのぞんでいただきました。

今回は、当山開基日晨上人の第世三回御諱も併修され、奉修導師、当山住職、教講を代表して加藤日流師の方々にお焼香をしていただいた。

丸山御導師と正晨寺のご信者さん


教講を代表して加藤日流師


当山住職のお焼香

七月十七日（日）蒲田・妙泉寺にて
佛立開導日扇聖人御正当会式
併同寺開基佛立第十五世講有
日晨上人御三十三回諱奉修

当山から二三名のお参詣、妙泉寺三七六名、他寺院二名の合計四〇一名のお参詣でした。

式中、ご利益談で岡元香姉の発表が有り、ご自身の子供誕生迄の体験を披露された。

不妊治療での御講師、信者達よりの助言、自分自身の改良等により、正直な気持が大切と悟り、子供を授かったというご利益談でした。

御法門
御教歌
あだむとも
いとはでいはん妙法を
あたら一人でたもつべきかは

当山長谷川御導師が奉修導師をお勤めされ、御法門をとかれました。

大意は、人にとやかく言われようとも、そんな事は問題ではない。この御題目の御利益を独り占めせず、どんどん他の人に伝えることが、信者として大切な心掛けである。

自分の為だけの信心ではなく、他の人にも、という心でご信心ご奉公させていただく事。それが大きな功徳の基となることを心に留めて、化他即自行のご信心、ご奉公に精進させていただくことが大切とお諭しになられた。

七月廿四日（日）大宮・妙玉寺にて
開導日扇聖人御正当会式団参

七月三回目の団参に、本庄序開師運転の清流バスと弘通車一台の総員二七名で、お参詣させていただきました。

今回は、第三、第四連合が中心で、清流寺出発後、立川、国分寺、久米川にて団参参加者を乗せながら向かいました。

妙玉寺様には、予定の三十分前に着き、控室では妙玉寺様の厚い接待を受けた後、本堂へ昇堂後、予定通りの十一時より、奉修導師の長谷川御導師の発声により開導会式が開始されました。

式中、妙玉寺音楽隊による「日扇聖人讃歌」の斉唱があり、澄んだ声の心地良さに感銘をうけました。

御教歌
「講中（こうじゅう）と　成（な）て御講へ参らねば
講の外（そと）なる　人にかはらず」

当宗の信者は、御講、御法門の席に参詣させて頂くから講中なのであるが、講中なのに参詣できないのは、名前だけの講中であり、信者外の人と少しも変わらない。ご信者とはいえないぞ、とお折伏された御教歌。

お講席、お総講、お会式等御法門聴聞の席に足を運び、講中外の人と同じにならぬ様、自他共の信行に精進させて頂くことが大切と御教導いただきました。

式後御供養をいただいた後、十三時三十分に妙玉寺を出発し、帰路につきました。

今年から始めた連合単位の団参では、連合長、教区長の呼びかけにより、全連合の皆様のお参詣が叶っていると思っていますので、今回参詣できなかったご信者は、次回の当番参詣時、お申し込みいただきたいと思っています。

渉外部　久保田明男

当山からの団参者 熱心なお看経

立派にご荘厳されたご宝前